

唱えて覚える漢字学習の新しいスタイル

ミチムラ式漢字学習法

なかよく
たすけ合う 1組

漢字って
とってもうまく
できてるでしょ～

漢字って
おもしろいね！
楽しいよ！！

ミチムラ式漢字カード

カードの使い方のご案内と
漢字学習へのメッセージ

<https://kanji.cloud>

ミチムラ式漢字カードを初めてご利用になる方へ

カードを切り離す前に お使いの教科書会社名をご確認ください

東京書籍、教育出版、学校図書、三省堂の教科書をお使いの方は並び替えが必要です。 右欄参照 →

光村図書をお使いの方はそのままご利用いただけます。
下記を参考にカードを切り離してお使いください。

カードを切り離す前にカードリングをご用意ください。内径30mm程度のものがオススメ。



カードの切り離し方 【最初に折り目をつけると簡単に切り離せます】

- ① シートの枠を切り離す ② 横列の5枚ごとにカードを切り離す



最初に折り目をつけてから四辺の枠を切り離します。



横列で折り目をつけてから横並びのカード5枚を一緒に切り離します。縦列を先に切り離すと並び替えが大変なのでNG！



- ③ 1枚ずつ切り離す



②で切り離した5枚をさらに切り離してカード状にします。

- ④ カードに穴をあけてリングにとじる



先が細いもので穴を開けて（5枚まとめて開けると効率的）番号順にリングでとじます。100枚程度でとじるのがオススメ。



光村図書以外の教科書をご利用の方へ

各教科書に対応するカード順への並び替え方法

教科書の新出順に学習するためにカードを並び替えてからのご利用がオススメです。下記URLの漢字配列対照表を参照いただき、カード右上の教科書新出順番号を書き換えてカードの順番を並び替えてからご利用ください。



うら面の番号まで書き換えると大変なのでおもて面の書き換えだけでも十分です。

【漢字配列対照表URL】

全教科書会社の対照表一覧QRコード ↓

東京書籍 <http://kanji.cloud/assets/tokyo.pdf>
教育出版 <http://kanji.cloud/assets/kyoiku.pdf>
学校図書 <http://kanji.cloud/assets/gakko.pdf>
三省堂 <http://kanji.cloud/assets/sanseido.pdf>



パソコンやスマホでご覧いただくか、PDF ファイルを印刷してご利用ください。

教科書は出版社によって利用率に差があります

各小学校で採用する教科書は全国の自治体によって異なります。国語の教科書の利用率は右表のようになっており、光村図書の利用率が高くなっています。そのためミチムラ式漢字カードは光村図書に準拠して製作しています。光村図書以外の教科書をご利用の方にはご不便をおかけして誠に申し訳ありません。どうぞご了承ください。

全国の利用率

光村図書	60.5%
東京書籍	22.7%
教育出版	14.5%
学校図書	1.4%
三省堂	0.8%
2018年度採択状況	

はじめに

多くの小学生は漢字学習が嫌いです。漢字を嫌いになる理由は様々ありますが、最大の要因は「書いて覚える漢字学習」にあります。同じ字を繰り返し書くのは単調かつ苦痛な作業であり、決して楽しいものではありません。実際に子どもたちは漢字の宿題が面倒で、漢字から逃げ回っている子どもは多くいます。

もともと読み書きが苦手なために漢字嫌いになるケースもあります。誰にでも得意分野と不得意分野があるように、読み書きが極端に苦手な人もいます。そんな子どもたちに漢字を書いて覚えさせようとするのは、左利きの子どもに右利き用のハサミを持たせているのと同じで、努力が足りないから覚えられないわけではないのです。

私が提案している「唱えて覚える漢字

学習」は何度も漢字を書いて覚える必要がない学習法です。昔から漢字の学習といえば「書いて覚える」のが定番で、書かずにどうやって覚えるのかと、誰もが疑問に思うでしょう。私を含めて、多くの大人はひたすら漢字を書いて覚えてきたので、そう思われるのも当然です。

しかし「唱えて覚える漢字学習」は、文字を書いて覚えられない全盲の子どもたちがどうにかして漢字を学べるようにと、長年に渡って「読み書きのしくみ」を調べ尽くした根拠と合理性に基づいています。読み書きに対して極端な苦手さはなくても（視覚障害者が漢字学習の一番の弱者です）、漢字学習に苦勞している子どもたちに活用していただければ、十分に効果を発揮します。

とはいえ「唱えて覚える漢字学習法」は魔法ではありません。学習する子どもにも最低限の努力は必要ですし、先生や

保護者がこれまでの常識を捨て、新しいスタイルの漢字学習に取り組むための意識改革も必要です。しかし、これらのことは決して難しいことではありません。キーワードは「学習を楽しむ」ことです。

漢字への苦手意識がなくなれば、学習意欲が湧いて学習全般が復活します。子どもたちは読み書きが苦手でも漢字を覚えたいと心の中で願っているし、新しいことを知りたい、学びたいと思っています。子どもの知的好奇心を上手に刺激して、それぞれの子どもに合った方法で学習をサポートしていきましょう。

みちむら しずえ
道村 静江

点字学習を支援する会 会長
かんじクラウド株式会社 会長
1955年2月7日生まれ。福井県勝山市出身。元横浜市立小・中学校教諭。横浜市立盲学校で視覚障害者の漢字教育に長く携わり、その経験を生かして全国各地の学校などで授業や研修会を行なっている。



1.書けるようになる

「部品の組み合わせ」で簡単に書ける

音訓セットの「漢字のタイトル」で読みに強くなる

漢字が苦手な子でも取り組みやすい

唱えて覚える ユニバーサルデザインの学習法です

ミチムラ式漢字カード

カードを使った書き学習の重要ポイント

・最初から書かない

手本を見ながら最初から書くと効果は半減。まずはカードを見て唱えよう！

・リズムよく、何度も唱える

漢字の部品を意識して構成を頭に焼き付けながら何度も唱えよう。
書いて覚えるより、はるかに早く、しかも楽に覚えられます！

・カードを見ずに言えたら1回だけ書いてみよう

部品の組み合わせが頭に浮かんでいれば、それは書けているのと同じ。
何度も書いて確認する必要はありません。

カードを使った学習風景を動画で紹介しています

YouTube <https://youtu.be/Rq7LBh3dmQQ>



書くための時間と労力は最小限に

漢字にはカタカナが多く使われています。低学年の段階で漢字に使われているカタカナに注目させると、子どもたちは簡単に書けると思えるようになります。漢字に隠されたカタカナ探しはとても楽しい学習です！

空 = ウルエ 公 = ハム 令 = ^{ひとやね てん}へ、マ

高学年に登場する漢字のほとんどは、低学年までに習う基本漢字と部品の組み合わせです（P12参照）。部品レベルに分解して覚える方法を積み重ねると、複雑に感じる高学年の漢字もスッキリと、しかも簡単に覚えられます。

教 = 土ノ子^{のぶん}𠂔 ➡ 3年 整 4年 敗 5年 故 6年 激
曜 = 日ヨヨ^{ふるとり}佳 ➡ 3年 集 4年 観 5年 護 6年 奮

漢字一字は部品の組み合わせで簡単にクリアしましょう。
この方法で学習を進めるとよく似た漢字、間違えやすい漢字をはっきり区別できるようになります。

「部品の組み合わせ」で「書き」は簡単にクリアしよう！ ➡ P5～P8

2.読めるようになる

漢字学習では読めることが一番大事！

誰もが「漢字が書ける」ことに注目しがちですが、「読める」ことの方が重要です。漢字には訓読みと音読みの2種類があり、漢字の読みにつまずく子どもは「音読み」を覚えられずに混乱しているケースが多くあります。例えば、低学年で習う漢字は訓読みで理解できる字が多く、その組み合わせで意味がわかる言葉も多くあります。

くるまのなか
車中 = シャチュウ

しかし、低学年の漢字はのちに漢語の一部として生活のあらゆる場面に登場します。その時に「音読み」で処理できないと、読めない漢語になってしまいます。高学年で読みが苦手な子の多くは音読みの習得が十分でなく、声に出して読まずに見るだけで意味をわかろうとしますが、正確な意味をとらえているかは疑問です。

例：赤道 指名 見当 通知 意外 強引 弱小 雨天 低下

漢字が苦手な子どもは、書けるよりもまずは読めるようになることを優先しましょう。読めれば社会生活はクリアできます。

音訓セットの「漢字のタイトル」を
唱えて覚えよう！ ➡ P9・P10

3.使える漢字を増やす

目指したい漢字学習の最終目標はココ

① 漢字を使えるようにする

漢字一字の読み書きができてても漢字は使えないと意味がありません。子どもが作文などで漢字を書かないと嘆いている方がいますが、それはすぐに思い出せない、どの漢字を当てはめるべきか迷っているからです。「部品の組み合わせ」で学習することは漢字がもつ意味の理解につながります。なぜなら、漢字は意味ある部分が組み合わさって作られた字だからです。部品の組み合わせやつながりで漢字一字の意味がわかったり、漢字をグループ化したりすれば、言葉の中での漢字の使い方や選択で迷わなくなります。これが「漢字が使える」ということです。

② 語彙を増やそう

せっかく苦勞して新しい漢字を覚えたのなら、その漢字が含まれる言葉や語彙を増やして言葉の世界を広げていきましょう！ 子どもは聞いたことがある言葉でも、すでに習った漢字が使われていることを知らなかったりするものです。言葉は身近なところに多く転がっています。机に向かうことだけが学習とは限りません。子どもと言葉集めをしたり、新しい言葉を発見したりして、楽しみながら使える漢字を増やしましょう。

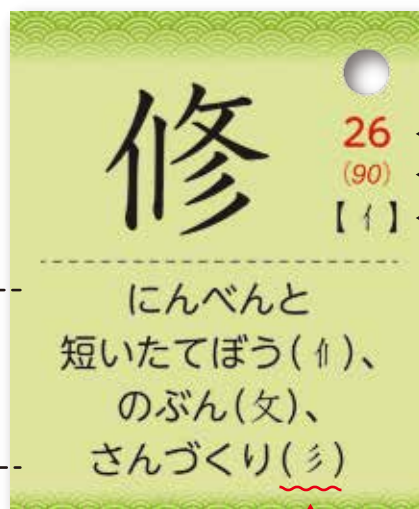
部品の組み合わせを リズムミカルに覚えよう

カードを見ずに覚えられるようになったら一度だけ書いてみましょう。
頭の中に漢字の形が思い浮かんだら書けるようになっています。

覚え方 (部品の組み合わせ方)

部品の組み合わせ方を口に出して覚えられようになると、漢字が頭に浮かびスムーズに書けるようになります。**リズムよく、繰り返し唱えて組み合わせ方を覚えましょう。**書いて覚えるよりラクに学習を進められます。また、書き順に配慮した覚え方になっているため**正しい書き順も身につきます。**

5年生カード



部品はとても大切！

部品とは部首やそのほかのつくりの部分指し、漢字を構成する大切な要素です。繰り返し出てくる部品の名前と形を覚えると、高学年の漢字も簡単に覚えられようになります。カード下段の覚え方の欄に示した()内の形を意識しながら覚えましょう。

光村図書の教科書新出順

学校の授業に合わせて学習を進められます。光村図書以外の教科書をご利用の方は番号を書き換えてご利用ください。

音読みの五十音順

カードの順番を並びかえて復習したり、教科書の巻末資料などを参照する時に利用します。

漢字の部首

漢字が属する部首を表しています。辞典を調べる時などに活用してください。

➡ 部品カードのページ(P11)もご確認ください

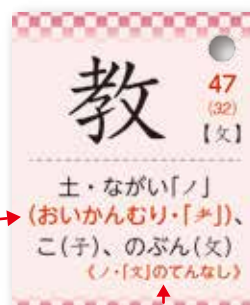
唱え方のルール

- ・カードを見ながらリズムカルに唱えよう。
- ・まるカッコ()の中は形を示しています。
- ・赤字のまるカッコ()はレベルの高い部品名や覚え方です。覚えておくと便利です。
- ・にじゅうカッコ《 》の中は書き方の説明です。唱える必要はありません。
- ・自分の唱えやすい言い方に変えても OK !
- ・友達や家族と一緒に楽しみながら唱えよう。

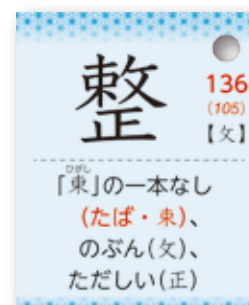


慣れてきたら
形を思い浮かべながら
テンポよく早口で
唱えると Good !

2年生カード



3年生カード



手を叩いてリズムに合わせたり
体を使って唱えるとより効果的



たとえば「教」の唱え方は
つち、ながいノ、こ、のぶん (つち、ノ、こ、のぶんでもOK)
または おいかんむり、こ、のぶん と唱えます。
「整」は ひがしのいっぽんなし、のぶん、ただしい
または たば、のぶん、ただしい
と唱えましょう。

唱える学習法のもうひとつのメリット

唱える漢字学習法は友達とのコミュニケーションツールとして有効です。漢字は個人の学習と思われがちですが、友達と漢字のタイトルや部品の組み合わせを言い当てっこして覚えているかを確認し合ったり、グループ単位で競い合ったりすると大いに盛り上がります。漢字学習を個人のレベルにしておかず、クラスや家族で盛り上がりましょう。学習が楽しくなると、自ら調べたり机に向かうようになるなど、能動的な学習 (アクティブラーニング) につながります。



2020年度への移行措置に対応

2020年度の学習指導要領改定に伴い、学年で習う漢字 (学年配当漢字) に若干の変動があります。2018年度から4年生、2019年度から5年生と6年生が対象です。移行する漢字にはカード左上に移行する学年を赤字で記しています。

5年
↓
4年

4年
↓
6年

中学
↓
4年

学習のポイント

部品の組み合わせを唱えて覚えよう
何度も書く必要はありません

カード上段の漢字を見ながら、下段の「部品の組み合わせ方」をリズムカルに何度も唱えましょう。部品の形や位置を確認しながら、目に焼き付けるように唱えると効果的です。また、小さい声でつぶやくように唱えたり、ゆっくり唱えていてはなかなか頭に入りません。大きな声でテンポよく唱えましょう。そしてカードを見ずに唱えられるようになったら、1度だけ書いてみます。書けることを確認できたらOK。一度で書けたね、すごい！とほめてあげると子どものやる気も上がります。



唱えて覚えるのが基本の学習法です。基本漢字や部品を確認するために書くのはOK。

書く練習は基本漢字と部品だけ
細かいところにはこだわりません

「木」や「土」のように分解すると線構成になる字が基本漢字（カード左上に赤い印）です。基本漢字は部品と同じように何度も登場します。書字が困難な子どもも基本漢字と部品だけは書けるように頑張って練習しましょう。画数が少なくて単純な形が多いので、きっと書けるようになるはずです。また、カタカナと同様に基本漢字と部品が初めて登場した時に形や書き順を正確に書けるようにしておく、常用漢字すべての細かい部分を間違えずに書けるようになります。

また、とめ・はね・はらいを注意しすぎないことも大切です。細かく指導する教材もありますが、そもそも書体(字形)には何種類もあり、手書き書体(楷書体・教科書体など)と印刷書体(明朝体・ゴシック体など)で表現が異なります。字体(骨組み)が正しく書けていればOKです。

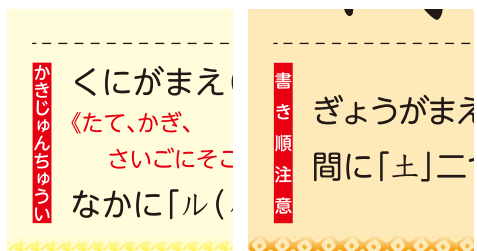
常用漢字表の 基本字例	骨組みに過不足がなく、誤りとは言えない手書きの字形の例			
木	木	木	木	木
女	女	女	女	女
言	言	言	言	言
改	改	改	改	改

骨組みに過不足がなく、誤りとは言えない手書き字形の例(文化庁の常用漢字指針より抜粋)

唱え方の通りに書けば書き順もOK！
ただし、こだわりすぎないように

カードに示した通りに唱えて部品を組み合わせれば正しい書き順で書けるようになっています。しかし、漢字の構成上、正確な書き順通りに部品の組み合わせを示すのが難しい、またはまわりくどくてわかりにくい場合は、シンプルな唱え方（部品の組み合わせを優先）に留めて「書き順注意」と赤字で示しました。教科書や辞書で書き順を確認しながら学習を進めましょう。特別な書き順は少ししかありません。全ての字の書き順を気にしながら練習するより簡単なのはです。

ただし、とめ・はらいなどと同様に書き順に対して過度にこだわる必要はありません。そもそも書き順は何通りもあり、そのなかの一つが学校で採用されているだけです。時代によって教科書に示される書き順も変わっています。細かく注意しすぎないようにしましょう。



書き順注意は1,026字のうちわずか44字。

部品に注目して漢字同士を関連づけて
ワクワク楽しめる学習につなげよう

低学年の段階から部品には意味や成り立ちがあり、部品が組み合わさって漢字が構成されていることを意識して学習すると、高学年の学習がスムーズです。

部品に注目できると、意味のある部分が組み合わさって漢字の意味が成り立っていることを理解できます。すると同じ部品を持つ漢字にはそれぞれ**関連性**があることがわかったり、似たような形の字で**書き間違えたりすることが減ります**。

「漢字はおもしろい」と思えるように、子どもの知的好奇心を上手に刺激して、ワクワクできる楽しい漢字学習を心がけましょう。



「しめすへん」の解説(小学館例解学習漢字辞典)



部品を通して漢字の知識を体系的に整理すると子どもの読み書き能力は驚異的にアップします。

漢字のタイトルを唱えて 音読みに強くなろう

光村図書の教科書新出順

光村図書以外の教科書をご利用の方は
番号を書き換えてご利用ください。

音読みの五十音順

カードの順番を並びかえて復習したり、
教科書の巻末資料などを参照する時に
利用します。

漢字のタイトル

音訓セットの漢字のタイトルは、その
字を読めるようになるために覚えてほ
しい代表的な音読み漢語がセットにな
っています。日本人なら知っておくべ
き言葉ばかりなので、しっかり覚えま
しょう。1年生と2年生はすべてひら
かなで表記しています。

訓読みは送りがなを区別できるよう
に_(下線)で区切ってあります。「喜」の
例では、よろこぶと「ぶ」を少し離し
て強調して唱えると間違えません。

低学年の音読みや語例は難しいかも
しれませんが、音訓セットで丸ごと覚
えましょう。必ず役に立ちます。

4年生カード

語例（1年・2年）

同音異字（3年～6年）

低学年では教科書などで使われる語
例を記載しています。漢字のタイトル
と合わせて、言葉の使い方を確認しま
しょう。3年生以降は音読みしかない
漢字が増えたり、カ行とサ行の音読み
が増えたりして、子どもは音読みで混
乱します。同音でも意味に違いがある
ことを知り、正しい字を選択するた
めの復習に活用してください。



中学や高校で習う読み方には
印をつけてあります。無理の
ない範囲で覚えるようにして
おくのとあとで役立ちます。

書けることも大切ですが、 読めることはもっと大切！

3年生までの漢字は訓読みを先に習うことが多く、後になって習う音読みがなかなか定着しません。また、4年生以降になると音読みしかない漢字が急激に増えます。しかも音読みの半分以上が力行とサ行に集中しているため、高学年で多くの子どもが漢字の読みで混乱しています。

するとどういことが起こるでしょうか。高学年の教科書はどの教科も漢字を使った熟語（特に漢語）ばかり、音読みが定着していないために教科書を読めない子どもが続出するのです。

IT環境が発達した現代では仕事や日常生活でパソコン・携帯端末の活用が欠かせません。しかし、それら情報端末の活用時に正しい読み方を知らないと文字を入力することができず、間違った変換

にも気付けません。またネット検索で情報を得るにも、その多くは漢語ばかり。読みが苦手なままでは読みこなせません。

こうした現状を踏まえ、手書きの機会が激減するこれからの時代は、文字を書く練習を効率よく最低限の努力で済ませ、文字を読んだり正しい漢字を選択できる力をもっと身に付けるべきです。そのために、まずは音訓セットの漢字のタイトルをしっかり覚えましょう。熟語を見たときに音読みが即座に頭に浮かんで読めるようになります。

もちろん、整った字や読みやすい字を書こうと心がける気持ちは尊重されるべきです。しかし、まずは読めること。そして語彙を増やすことです。別のステップ学習として相手が認識できる文字が書けることを課題にしたほうがよいと思います。

音読みカード



5・6年生のカードには学年に登場しなかった音読みを復習できるカードが付属。

【部品カード おもて／うら】

部品に強くなって 漢字博士になろう！

※正式部首はおもてとうらの両面構成ですが、正式部首以外の部品カードは片面構成になっています。

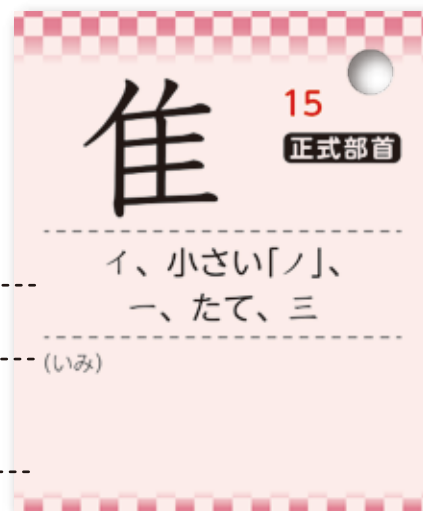
書き方

漢字カードの部品の組み合わせ方と同じです。カード上段の字形を目に焼き付けながら繰り返し唱えて、組み合わせ方を覚えましょう。

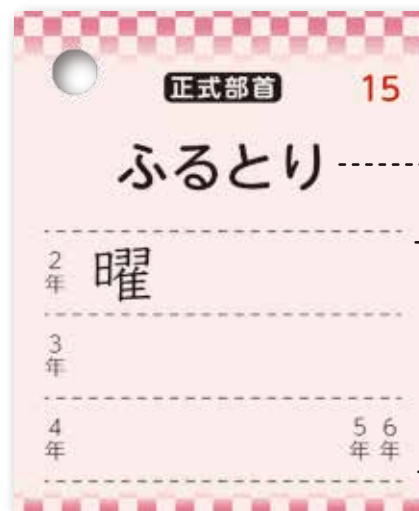
意味

全ての部品に意味があります。

辞書などで意味を調べて、絵で表したり、簡単な言葉で書いてみましょう。空欄のままでも OK。



- 正式部首** 辞典にも掲載されている正式な部首
- カタカナ** カタカナがもとになっている部品
- ひらがな** ひらがながもとになっている部品
- 独自部品** ミチムラ式オリジナルの部品



- 3年漢字** 上の学年で習う字が部品として登場する場合に、どの学年で登場するかがわかるように示しています。
- 4年漢字**
- 5年漢字**
- 6年漢字**

部首・部品は、形や言葉を覚えるのも大切ですが意味を知っておくことも重要です。たとえば「佳(ふるとり)」という部首は2年生の「曜」で初登場します。

「ふるとり」という言葉は2年生には難しくて覚えにくい言葉でしょう。しかし「ふるとり」に鳥という意味があることを知ると子どもの理解がとて深まります。トリは「鳥」のほかに漢字の部分として「佳」という形で多くの字に使われており、大人も驚く発見があるはず。ぜひ調べてみましょう。



「ふるとり」の解説(小学館学例学習漢字辞典より)

部品の名前

名前から形を思い浮かべて書き方を言えるか確認しましょう。独自部品は正式な部首ではありませんが、漢字によく登場する部分です。

同じ部品をもつ漢字

その学年の漢字だけ記載し、上の学年で登場する字は空欄にしてあります。復習などの際に「同じ部品をもつ漢字」を調べて空欄やノートに書き出してみましょう。

4年生以降の学習が簡単になる理由

小中学校の義務教育で学ぶ漢字は2,136字あります。これらの漢字は日常生活でよく使われる字なので（常用漢字）、学校教育できちんと学ぶ必要があります。しかし、部品の組み合わせで覚えるミチムラ式漢字学習法では、右の表にまとめた272字（148個の基本漢字+124個の部品）とカタカナの組み合わせで、すべての常用漢字を書くことができます。2,136字のうちわずか13%の字（しかも簡単な字ばかり）を書けるように練習すれば十分なので、とても効率的に学習できます。

「基本漢字」と「部品」のほとんどが3年生までに登場します。そして右の表で4年生以降が極端に少ないことに注目してください。中学校に至っては、1,130字のうち新しい形はわずか24個（全体の2%）しかありません。つまり3年生までに登場する部品の形と名前を習得すると、4年生以降に習うほとんどの漢字を書いて覚える必要がなくなります。一般的に学年が上がるにつれて難しいとされる漢字学習が高学年でとてもラクになるのです。多くの学校で5・6年生の漢字テストの平均点は50～60点台ですが、ミチムラ式漢字学習法を導入した学校では多くの学級が90点を突破しています。

また、効率的かつ漢字の本質を突いた学習法で義務教育の9年間を通して学べるのは大きな利点だと思います。

部品が登場する学年（道村調べ）

	基本漢字		初出部品		カタカナ ()変形カタカナ < > ひらがな
	その学年で登場する漢字	○の学年で登場する漢字	部首 ()は常用漢字外	ミチムラ式 独自部品	
1年 52個 80	39 一 二 三 五 七 八 九 十 口 日 田 目 月 土 王 正 大 小 上 下 中 虫 水 火 山 川 雨 木 竹 立 文 子 女 耳 手 人 入 力 年	2 ③ 丁 ⑥ 寸	8 冂 气 へ ル 一 口 么 凵	3 丰 小 止	21 イウ(ハ)エカ ケサ(サ)ソ(ソ) タツ(ツ)トナ ノハヒフム メル(ル)ロ ワ(ハ) < >
2年 80個 160	27 言 弓 矢 刀 父 母 西 北 羽 鳥 馬 牛 午 毛 角 食 行 止 半 長 米 心 方 里 門 戸 用	19 ③ 豆 由 予 ④ 欠 氏 周 良 士 未 ⑤ 可 ⑥ 己 至 ⑦ 斗 巾 斤 舟 且 占 又	26 讠 夕 夕 升 艹 禾 采 イ 夕 ム 四 子 母 頁 佳 豕 厂 广 多 冫 (云 袁 乍 勿 巴 也)	8 彡 产 开 止 乚 电 羊 夫	14 ア オ ク コ シ (シ) セ ネ (ネ) ホ マ ヨ ラ リ レ ン
3年 63個 200	12 央 曲 祭 皿 重 申 身 世 皮 平 面 羊	16 ④ 求 束 失 ⑤ 永 比 示 非 ⑥ 千 尺 ⑦ 垂 介 及 呂 吏 与 是	25 食 才 艹 夕 冫 冫 冫 尸 尸 尸 弋 戈 冫 艹 艮 爻 聿 冫 水 又 止 酉 (其 廿 辰)	10 丰 目 冫 艹 伏 以 艮 四 莫 子	1 ユ
4年 25個 200	11 以 衣 果 史 司 臣 单 飛 必 不 脉	5 ⑥ 我 亡 ⑦ 井 牙 丘	5 ネ 西 夕 几 (卅)	4 食 爻 冊 艮	1 ヌ
5年 16個 185	3 久 再 支	3 ⑥ 片 ⑦ 白 矛	7 ナ 夕 来 夕 巳 章 彡	3 高 冉 止	
6年 11個 181	3 骨 垂 冊	2 ⑧ 吳 齊	5 疋 尸 尤 (亥 甫)	1 业	
中学校 24個 1130	5 甲 巨 甘 缶 瓦	0	11 小 豕 死 舛 爻 互 中 (瓜 而 乃 此)	8 电 止 尤 影 尹 声 艹 丰	
合計	100	47	87	37	37

★この表に登場する部品やカタカナが各学年の部品カードに入っています。

学習のつまずきを見極めよう！

漢字の読み書きが**苦手な子どもには必ず苦手な理由があります**。そのような子どもに漢字を覚えられないからといって、ひたすら書かせても意味はありません。子どもの**実態を把握**したうえでの**対策や工夫が必要**です。

【書きのつまずき】

- ・手本を見ないと書けない
- ・写し書きの時に首を左右に振りながら書いている
- ・ひとつの字を一気に続けて書けない
- ・心の中で「たて、よこ、ななめ…」とつぶやくように書く

➡ 線構成で覚えようとしている

➡ 漢字が部品で構成されていることを理解させる

- ・線の過不足、突き出す・突き出さないなど微妙な間違いが多い

➡ 部品を正確に書けない

➡ 画数の少ない部品だけを正確に書く

- ・字のバランスが悪い、行からはみ出る
- ・一気に書ききれない

➡ 全体像がイメージできていない

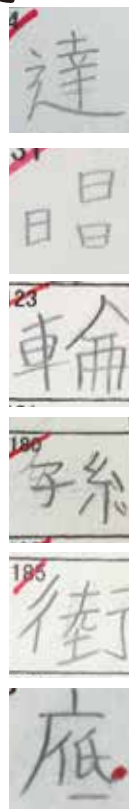
➡ 全体の構成を口で言うことによって思い浮かぶ

- ・テスト用紙の余白などに、いくつも試し書きの跡がある
- ・似たような部品を使って、違った字になっている

➡ 一字一字をあいまいに覚えている

➡ 部品の組み合わせをスラスラ言えるようにする

こんな間違い、
してませんか？



実態把握とは、書いた字を採点したり、間違いを指摘することではありません。**子どもの読み書きの様子を観察すること**で、どこでつまずいているか、どんなサポートが必要かなど多くのことが見えてきます。

【読みのつまずき】

- ・音読みが即座に出てこない
- ・訓読みから音読みへ変換できない

➡ 音読みが即座に出てこない

➡ 新出漢字のときに音読みと訓読みをセットで覚える

- ・よく目にするような熟語がすらすら読めない
- ・音読み漢語が即座に読めない
- ・訓読みから想像する意味だけを知り、正確な音読みを知らない

➡ 同音の音読みで混乱している

➡ 熟語とセットで覚えれば使い分けられる

細かいところにこだわるのは NG !

漢字のとめ・はね・はらいなどは、書体の表現によって変わることがあります。学校では教科書体を基準に指導していますが、同じ教科書体でもフォントの種類によって微妙に異なります。文部科学省はとめ・はね・はらいなどを必要以上に細かく指導しないよう注意喚起しています。とくに漢字に対して苦手意識がある子どもは、漢字の骨組み（字体）をとらえて他人に認識できる字が書ければ OK。細かく指摘すると学習意欲をなくしがちなので要注意です。

各学年の課題と指導ポイント

1年生

- ① 漢字のスタートはカタカナ。まずはカタカナをしっかり書けるようにする。
- ② ひらがなとカタカナは同時に導入したほうがよい。特に漢字学習を始める前にカタカナの導入を終えておくことで漢字学習がスムーズに進む。
- ③ カタカナが組み合わさって漢字が構成されていることを知る。
- ④ カタカナと習った漢字の組み合わせで覚えると便利であることを知る。
- ⑤ 基本の部品の書き順、とめ・はね・はらいなどを正確に書けるようにする。
- ⑥ 漢字には成り立ちがあることを知り、漢字はおもしろいと感じる。
- ⑦ 1年生の漢字は半数が基本漢字。ていねいに正確に書けるようにする。
- ⑧ 音訓読みを含む「漢字のタイトル」を唱える習慣をつける。

2年生

- ① 続々と登場する部品の名前を覚えて正確に書けるようにする。
- ② 部品の微妙な違いや注意すべきところをていねいに確認する。
- ③ 部品を正確に書ければ構成の多い字も正しい書き順で書けることを知る。
- ④ 部品の持つ意味や成り立ちを調べ、漢字のおもしろさを知る。
- ⑤ 160字ある漢字の多くが組み合わせでできていることを実感する。
- ⑥ 字体を部品で言い、漢字のタイトルをすらすら言えるように習慣づける。

3年生

- ① 3年生の前半までにほとんどの部品が登場する。部品の名前を覚えて書き順通り正確に書けるようにする。
- ② 同音の漢字がさらに増え、訓読みがない字も増えるので、熟語セットのタイトルを唱えてしっかり覚える。
- ③ 同音漢字を区別するために、代表的な熟語を知り、すぐに思い出せるようにする。
- ④ 生活によく使う200字を習うので、教科書の熟語以外の音読み熟語を増やして、使える言葉を増やす。

4年生

- ① ほとんどが既習漢字の部品の組み合わせであり、簡単に書けることを実感させる。
- ② 3年生までに使われた部品が多く登場し、同じ部品をもつ漢字が爆発的に増える。

- ③ 似た形の字で混乱しやすくなるので、使われている部品や組み合わせを正確に言えるようにする。
- ④ 同音の漢字が増えるため、区別するための復習が必要になる。漢字がもつ意味に注目させ、使い分けられるようにする。
- ⑤ 抽象的な意味をもつ漢字が増える。事物を表していないので、どの場面で使うのかわかりにくい。4年生以降は微妙な使い分けも必要なので、使い方や使う場面を確認する。
- ⑥ 難しい漢字も部品に分解すればすべて書けるようになり、習っていない字も使おうとする意欲をサポートする。

5・6年生

- ① ほとんどが既習漢字や「部品の組み合わせ」で楽にクリアできる。
- ② 部品による関連性をもたせ、意味や使い方の違いに気づかせる。
- ③ 音訓読み・熟語を含む「漢字のタイトル」の言い方を利用して、同音漢字を端的に区別できるようにする。
- ④ ほとんどの音読みを習うので、音読みと訓読みの読み替えや使い分けが即座にできるようにする。
- ⑤ 同じ字を使った様々な熟語を知り、語彙を増やすようにする。
- ⑥ 新出漢字だけの学習から、既習漢字を常に使うように意識づける。
- ⑦ 高学年の漢字が難しくないと実感できれば大人向けの読書ができるようになる。

中学生

- ① 全ての常用漢字に部品の組み合わせ学習法が適用できる。
- ② 中学校で登場する新たな部品はごくわずかであることを知り、意欲的に取り組める。
- ③ 同じ部品をもつ漢字が同音やよく似た意味をもつことで漢字同士がつながる。
- ④ 難しく覚えにくい常用漢字に対して、書くこと・読むこと・理解することが容易になる。とくに意味を考えて使い分ける学習に取り組める。

読み書きが苦手な高学年の子どもの復習ポイント

漢字を構成する主要な部品は3年生までにほとんどが登場します。そのため、高学年で漢字が苦手な子どもは低学年に戻ることが習得率アップの近道です。3年生、場合によっては2年生のカードに戻って基本漢字と部品をしっかり復習しましょう。簡単な字ばかりなので、すぐに追いつけるはずです。

